



編集・発行 山見乃妙能勢能報
日蓮宗 能勢部
〒563-0132
大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

ネズミの婿選び

倉橋 観隆

昔ある所にネズミの夫婦がいました。その夫婦にはとても可愛がつている一人娘がいました。その娘が成長し夫婦は娘のために国一番の婿を見つけようと探し始めました。

ある日のこと夫婦はふと空を見上げました。「そうだ、あの太陽さんがいるじゃないか。太陽さんはいつも天高くにいてみんなを照らしてくれている。国一番じゃないか」太陽に頼みに行きました。すると太陽は「私なんか雲が出てきたら隠れてしまう。雲さんの方が一番だよ」「なるほど」と、今度は雲の

ところへ行きました。

「私なんか風が吹いて来たら飛ばされてしまうよ。風さんが一番だよ」

「じゃあ風さんだ」

「風さん、娘を嫁にして下さい」と「私も強い方だが、そんな私でも壁には参ってしまおう」

「そうか……そうだ」

「壁さん、どうか娘を嫁にして下さい」

「俺は誰にも負けないがたった一つ勝てない者がいるんだ。それはネズミだよ。ネズミは俺をかじって大きな穴を開け、最後は倒してしまいやがる。俺はネズミにまったくお手上げだ」

「疲れ切っていた夫婦は、ハッとしました。」

「そうだ同じネズミが娘の婿

に最もふさわしい」

このお話はなんと鎌倉時代にできた話で日蓮聖人と同時代の無住という僧侶が『沙石集』の中で語っています。これには様々な教訓が込められています。その一つに、幸せは彼方にあるのではなく既に足元にあるのだと教えています。

日蓮大聖人はこのことをわけて何れの土を願うべきや」

と述べられています。しかし、私たちは辛い事が多い日々の中で、一体この世界のどこに幸せがあるのか、と思いがちです。でもここで「辛い」という字を思い浮かべて下さい。「辛い」の上に「一」を足せば「幸い」という字になるではありませんか。この支えとなる「一」こそ仏様を信じる心ではないか。何事もめげずに進みましょう。

【8月の主な行事】

- ★月例祈願法要 15日(土)13時
妙見さまの御縁日祈願会
開運殿にて執り行います
- ★孟蘭盆会施餓鬼法要 22日(土)13時

- ★鷗様月例祭 22日(土)15時
- ★写経会・清掃の日 22日(土)15時
星嶺演奏会・星嶺茶論
いずれも中止します

※ご祈祷・ご回向・兜矢等のお申し込みは窓口の他、郵便・FAX・メールにも受付しております

【9月の主な行事】

- ★八朔祭祈祷 6日(日) 9時～16時

ご祈祷お申込みの方には開金運「八朔田之実守」授与

- ★写経会 13日(日)11時
- ★清掃の日 15日(火)11時
- ★月例祈願法要 15日(火)13時
妙見さまの御縁日祈願会
- ★秋季彼岸会 22日(火)13時
- ★鷗様月例祭 22日(火)15時
火伏守札を授与します
- ★星嶺演奏会・星嶺茶論 中止します

※社会情勢により、予定は変更することもあります

※送迎車の運行は、当面見合わせています

再び感染拡大の様相を呈しています。当山では情勢を鑑みながら対応いたしたく、ご信者様の更なるご協力をお願い申し上げます。
《当面の対応策》
①窓口業務は再開。ご祈祷ご回向等は郵送・電話・メールも可
②昇堂はマスク装着、人数制限の上、外陣に

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

- てお詣り願います
- ③写経会は中止。郵送での対応をしています
- ④出会いの鐘巡り・登山カード押印は休止
- ⑤売店は土日祝日開店
- ⑥浄水堂・諸堂の鐘の紐は使用できません
- ⑦送迎バスは運行中止
- ★9月八朔祭は餅撒きなどイベントは中止し祈願法要のみ行います

供養の季節

桑木 信弘

新型コロナウイルス感染防止の自粛期間で例年とは違う雰囲気でごす中、実父の一周忌を迎えた。

親もとを離れ仏門に入った頃、師僧に「お前は父さんや母さんに悪いと思ってるか？」と、よく言われた。その頃、陰ながら心配をし取り越し苦労ばかりする両親を若い私は煩わしくも思っていた。「俺の何が悪いんだ」と内心不服に感じていた。いつの間にか気付かないうちに心に染みついていった父や母への頑なな想い。まるで胸の内に黒く大きな重苦しい岩を抱えているような心境であった。

家さんの姿に自分の親を想い重ね見た。すると「あああの時こんな風に私を思っていたくれたのでは」と色んな思い出とともに少しづつ私の頑なな心が、時間をかけ融けていくように、抱えてた胸の重さもゆっくりとが軽くなっていた。

今では私も二人の子を持つ親となった。子供達と関わる日常で感じる優しさ、心配、いら立ち等、それぞれの場面で今は亡き父の生の姿を想い、その心を追体験しているようで温かな気持ちになる時がある。父は私の中に、家族や人を黙々と思いやる心を遺してくれたのだと思う。

親の心子知らず、人の心に仏見えさというが、法華経はお釈迦様が一切衆生を愛子とし、末法を救済する為に遣された教え。お釈迦様は入滅されてもその生命は私達とともにあるが、心が柔和で素直でなければ仏

《法華経に学ぶ現代》

純智庵

一切衆生

をして

普く 聞知する

ことを

得せしむべし

『嘱累品第二十二』

情報あふれる

現代だけど

何を信じていいのやら

それぞれ我が身を

守らんと

中傷・誹謗の応酬だ

だからよく見て

よく聞いて

正しい判断身につけよう

普く世界を

知らなけりや

ツケを負う日が

きつと来る

俳壇

（みのり）

コロナ禍に狭められたる夏祭り

大雷に泣き泣き帰る小学生

いつもなら楽しい楽しい夏休み

庭隅に向日葵つんと空仰ぐ

ひやむぎにうつ舌つづみけふのランチ

法華経茶話Ⅱ

仏教の基本理念

彼らの問いに對する釈尊の答えが、四諦八正道です。四諦とは、苦諦（人が生きていること自体が苦である）集諦（苦が起る原因は煩惱）滅諦（煩惱を自力で断ち切ること）道諦（煩惱を断ち切るための正しい八つの修行）のことです。次に八正道とは、正見（正しい見解）正思惟（正しい決意）正語（正しい言葉）正行（正しい行為）正命（正しい生活）正精進（正しい努力）正念（正しい自覚）正定（正しい瞑想）を指します。つまり守るべき戒律は守り、正しい生活を送り、正しく考え、正しく行動せよと諭しているのです。決して断食のような苦行を強いているわけではありません。むしろ日々の生活の中で正しい行いを持続することの難しさに耐えてこそ、輪廻転生から抜け出せる人格が導かれると説いたのです。